

機密 第434番

旅順第一号

奉天 警察 署

友岡

旅順第一号

外国人知有財産者之姓名及一回国者之會
同會之關係を報告

右別冊ノ通茲ニ此等ノ事ヲ追供別覽候致具

明治三十九年二月十三日

在旅順

信使公使館ニ書書記官(指)

加藤外務大臣閣下

旅順第一号

外國人私有財産管理委員第一回委員(會)開(會)の概況

本年一月十五日関東統督府、石塚関東洲民政
長官ヲ外國人私有財産管理委員長ニ命ジ
石光務順要塞參謀長外十三名ヲ同委員ニ命
セリ(別紙甲号)翌十六日関東統督府同委員長
ニ對シ其任務ノ関シテ訓令ニ示レアリ(別紙乙号)
委員ノ多數ニ從来より務順ニ存テ又、本職ヲ有
スル者ナルガ其外ニ他者ヲ專任委員トナシ者
モ一月より二月上旬ノ間ニ概不着任ニ秋山陸軍省
參事官モ亦其ノ同一ノ任務ニ加ハルコトナリテ

此程務順ニ事リ日長ニ政報中ナリシ石塚委員
長ニ數日前既任セシコトカ、茲ニ本月十二日ヲ以テ
務順要塞殘務委員ノ任務ヲ新設ノ本委員
員ニ引渡シ同日及十三日ヲ以テ本委員ノ第一回
委員會議ヲ開催セリ

此會議ニ於テ總之、一月二十三日ノ官報ニ於テ告示
セラレタル関東統督府ノ制定ニ係ル殘留財産
調査ノ為メ渡航スル者ノ取締ニ関スル規則
附帶シ豫メ先着委員ノ手ニ於テ立案セリ
殘留財産ノ調査處分及搬出ニ関スル手續
案(別紙丙号)及委員職務規程案(別紙
丁号)ヲ討論確定シ又既設ノ告示訓令等
ニ係ル條句ノ疑義ヲ質シテ其解釈ヲ一定シ且他

本委員、前身を要塞残務整理委員、予
より引継ぎ野田案に属する五六ノ問題ヲ解決シ
經費繰上り外二三ノ少事項ヲ議定シテ同會議
ヲ終了セリ

以上ノ會議ニ於テ問題トナリシモノハ概テ創案シ
伴フ此少ノ豫備的決議事項ト過キズ随テ特
茲ニ報告ニ値スルモノ強ト是トナキモ此ヲ討議事
項ノ一タリシ露清銀行、帳簿問題ハ多ク一二
スルノ要アルハ中斷ト思ハルヲ以テ左ニ其梗概ヲ
述ヘシニ本月五日露清銀行ノ代表者トシテ
「アフリドベルヒ」ナ者旅順ニ来リ前記残務委員
ニ就テ露清銀行官憲ノ年一ニ保管シ来ル同銀行
ノ帳簿書類及財産ノ下渡方ヲ願出テ来リ之ニ

對シ該委員ハ舊露國旅順市ノ在旅順露清
銀行支店ニ對シテ有ル武裝回萬ハ今多ク
預金留積六萬ノ債權(預金)ハポーランド條
約第五條ノ規定ニ從ヒ帝國政府ニ移リ来リ
以テ該債權ハ全部ヲ同銀行ヨリ帝國政
府ニ送付スル事ヲ確定スル証書ヲ旅順
ニ於ケル露清銀行官憲ニ提出ス(キ)條件トシテ其請
亦ニ應答ス(キ)トノ意ヲ示ス(キ)即チ該金額ノ
支拂ヲ承諾スルニ至リマテハ帳簿他ノ財産ト
共ニ高懸クシテ差押(置)ク(キ)ト同委員ノ意
見ニテアリシナリ「フリドベルヒ」ニ於テハ本件ハ同一
已ニ於テ即答シ能ハストノ故ヲ以テ何分ノ指
ヲ同銀行支店ニ仰ク(キ)ト述テ既ニ電信

ラ以テ其旨存座ニ請訓中ナレモ、如シ然レニ
今夕回ノ者、理事委員會ニ於テ本件ニ討議ノ問題
トナリシニ、該局銀行ノ帳簿ナルモノニ、素オト私人ノ
貸借關係ヲ記シ、モモ、大部分ヲ在タルヲ以テ之ヲ
我年ノ留置スルニ、穩當ニテズ、同銀行ヲシテ前記
ノ金額ヲ任拂ハシタルノ担保トシテ、別ニ同銀行固
有ノ財産ノアルアリ、即チ同銀行ノ該項ニ、残留セル
地所家屋、如キ、暫ク之ヲ差押ヘ置テ、在レ、帳
簿ハ類ト異リ、券三者先私人ニ其痛ヲ照ルルモノ
ニ非ラカ、故ニ一般ノ同銀行預金者ヨリ、甚情ノ生ス
ル憂テ、チヲ以テ宜ク是レヲ、何リテ、彼レヲ、捨テ、帳簿ニ
此際一切還附スレト、意見ニ、敢着シ、同人ニ對シ
今回改メテ其趣ヲ傳ヘ、リ、其他殘留財産ノ良分

ニ就テ、大體、ニ於テ、昨年十一月十三日大存管ニ
於テ協定スル方針（別紙成号）ニ準據スルニ、意見
ナリ

委員名已ノ執務上ノ分担ニ、在リテ、殘留財産中不
動産ニ、特ニ、外國人ノ權利關係多ク、其係争事項
ニ、尠シ、理廢スル上ニ、於テ、殊ニ、慎重且、迅速ヲ要スル
モノト、思ハレ、此カ故ニ、主任委員選定ノ協議ノ際、
小官ニ、自ラ、進ニ、テ、其主任ヲ、ラ、シ、コトヲ、申出テ、委員
長ノ、賛同裁定ヲ、得、リ、之ニ、關スル、事務、ノ、今、後、ノ
進行ニ、隨時、重ク、報、告、ニ、及、フ、ヘキ、所、存、ナリ、ト、ス

甲

外國人私有財産整理委員及同委員附屬

委員長

關東州民政長官

石塚英藏

委員

旅順要塞參謀長

石光真臣

同

關東州鐵道事務官

關屋貞三郎

同

旅順要塞經理部長

河合光雄

同

公使館二等書記官

信夫淳平

同

總督府副官

鷺見榮治

同

旅順要塞副官

山根信一郎

同

關東州鐵道署旅順支署長

小嶋源三郎

同

關東總督府經理部附

池田賢太郎

同

關東總督府附

大和田三樹太郎

委員

法律事務囑托

蜷川新

同

陸軍通譯

市川寅次郎

同

同

莊直一

同

同

宇佐早出彦

同

同

星野桂吾

同

陸軍省参事官

秋山雅之助



乙字
關東總督府經第百四十六號

明治三十九年一月十六日

關東總督男爵大島義昌

外國人私有財産整理委員長
關東洲民政長官石塚英藏殿

訓令

一 委員ハ關東總督府管内ニ在ル外國人ノ私有財産
及之ニ關連スル事件信書其他係争事件等ニシ
テ此際整理處分ヲ要スルモノ、處理ニ任スベシ
ニ委員ハ左ノ方針ニ基キ整理處分ス可シ
(一) 整理ハ最モ鄭重ニ而モ迅速ニ終了スルヲ努ムベ

(二) 私權尊重ノ主旨ヲ体シ速ニ權利者ヲレテ慰安ナラ
シムルコトヲ計ルベキモ既ニ沒收ヲ宣言シタル財産ハ之ヲ
還付スルコトナシ

(三) 整理ノ結果返還スベキモノハ正當ノ權利者若クハ其
代理人ニ還付ス但シ引受人渡航セサル爲メ返還シ
能ハサルモナル時ハ其地民政官衙若クハ兵站官衙ノ
保管ニ付スルコト

(四) 財産整理ノ爲メ渡航スル外國人ノ取締ニ関シ要
スル場合ハ其地管轄官衙ノ長官ニ交渉スルコト

(五) 戰役中徵用シタル私有財産ハ補償ノ宣言ヲナシ

タル者ノ外要償ニ應セサル
三、委員長ハ事務ヲ総理シ整理處分ヲ專行スベシ
但シ重大ナル事件ハ其都度本職ノ認可ヲ受クベシ
四、委員長ハ整理處分ノ結果執行ヲ要スルモノアル時
ハ其地ノ民政官衙若クハ兵站官衙ニ其執行ヲ要
求スルコトヲ得
五、委員長ハ毎旬業務ノ状況ヲ報告ス可シ
六、委員長ハ整理ニ要スル費用ノ豫算ヲ定メ本職
ニ申請ス可シ

丙

殘留財產調查處分及搬出ニ関スル手續左通是ハ

明治九年二月廿 外國籍財產整理委員長 石塚 英藏

殘留財產調查處分及搬出ニ関スル手續

第一條 本規則ハ關東總督府管内ニ於テ調査處分ハ搬出
ヲ為サズル 殘留物件ノ所有者又ハ其代理人並殘留物件
搬出ニ爲旅順又ハ大連ニ渡航スル船舶及乗組員ニ之ヲ
適用ス

第二條 殘留物件ノ調査處分又ハ搬出ヲ爲サズル者ハ其所有者
又ハ代理人豫メ日本スヲ以テ同物件ノ品目數量價值額
並殘留場所及年月日ヲ詳記シタル書面ヲ旅順ニ在リテ
同地民政署大連ニ在リテハ民政署ヲ經テ整理委員長
ニ提出スルニ

前項ノ書面ハ已テ得ザレハ日本又ハ代ルニ英文又ハ佛文ヲ以テ
スルニ得

第三條 陸軍省ノ許可ヲ得ル船舶ニテ旅順ニ入港シタルト
シテ旅順ニ鎮守府及同地民政署ニ大連ニ入港シタルトシテハ
大連ニ防備隊及民政署ニ對シ到着後四時間以内ニ
船舶所有者若シ船長ヨリ渡航ノ目的、船名、船籍、噸數、
船員其他乗組員ノ名簿、發航及歸航ノ港灣並發航
ノ年月日ヲ記載シタル書面陸軍省ノ渡航許可證寫ヲ
添テ呈出スル其指揮ヲ受クヘシ

第四條 前條船舶ノ船員ニテ戰時期間内ニ陸軍ハトシテ者ハ
其氏名年齡職務上陸ノ目的及期間ヲ記載シタル
願書ヲ旅順ニ在リテハ旅順口鎮守府ニ大連ニ在リテハ大連
灣防備隊ニ提出シ其許可ヲ受クヘシ

第五條 陸軍省、許可ヲ得残留物件搬出、為渡航シタル
船舶ハ其目的以前ニ該船舶ヲ使用セザルヲ得、但シ民
政官衙ニ於テ特ニ許可シタルモノハ此限ニテラス

第六條 残留物件ノ所有者及、其代理人ニ於テ同物件ノ調
査屬介ヲ為サズルニ當リテ、整理委員及民政官衙ノ指
揮ヲ受クニシ

第七條 残留物件ノ搬出ハ民政官衙ニ於テ特ニ許可シタル場
合ヲ除ク、外大連灣又ハ旅順港ヨリ為スルモノトス

第八條 鐵道ニ依リ残留物件ヲ其所在地ヨリ搬出セザル
トキ、同物件ノ重量、容積及、所要車輛數ヲ或ハ
官衙ニ屬然テ其指標ヲ受クニシ

第九條 殘留物件搬出ノ場合ニ於テハ、豫メ其物件ノ目錄
ニ通シ民政省又ハ民政署ニ提出シテ、檢査ヲ受クニシ、要ス

第十條 殘留物件ヲ搭載シ出港セザル船舶、同船舶ノ
所有者若ハ船長ニ於テ出港ノ前日正午迄、旅順ニ在リテ

旅順口鎮守府及同地民政支署ニ大連ニ在リテ大連灣防備
隊及民政署ニ其出港ノ日時ヲ届出シ

第十一條 定期船ニ依リ殘留物件ヲ搬出セザル者ハ、豫メ其船
舶ノ碇泊港及船名ヲ民政署又ハ民政支署ニ届出シ

第十二條 殘留物件搬出ノ場合ニ於テ整理委員ハ何時ニテ
船舶内其他物件ノ所在地ニ至リテ物件ヲ點檢シ、船員
其他ノ關係者ヲ尋問シ、書類ノ提示ヲ命ジ、其他必要
ノ處介ヲ受クニ得

第十三條 渡航船舶及乗組員其他殘留物件ノ調査屬
介ハ、搬出ヲ為サズル者ハ前諸條ノ外、關東總督府
及旅順口鎮守府管内ニ施行ノ規則會令ヲ遵守

スヘギモトス
附 則
本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

5-0721

0015

丁号

外國人私有財産整理委員事務規程

第一條 外國人私有財産整理委員委員長ノ指揮監督ノ下ニ閣

東總督府管内ニ残留セル外國人ノ私有財産及其他ノ物件整

理處分ニ任セラルトス

第二條 委員ノ下ニ通譯及附屬員(附表ニ)ヲ置キ委員ノ指揮監

督ヲ受ケ整理事務ヲ補助セシム

第三條 委員ノ事務ヲ掌スル爲メ左ノ三係ヲ置ク

一、庶務係

二、動産係

三、不動産係

第四條 庶務係ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、機密文書及機密ニ関スル事項

二、公文書類及成案文書ノ接皮發送ニ関スル事項

三、文書ノ整理、保存及淨書翻譯ニ関スル事項

四、日誌、報及議事録ニ関スル事項

五、經理事務ニ関スル事項

六、右ノ外他係ノ事務ニ属セザル事項

第五條 動産係ハ我官憲ニ於テ収容保存シル残留動産其他物

件ノ調査處分及之ニ關聯スル諸般ノ事項ヲ掌ル

第六條 不動産係ハ残留不動産ノ調査處分及之ニ關聯スル諸般ノ

事項ヲ掌ル

第七條 各係ノ主任委員ヲ置キ其擔任事項ニ關シ主トシテ調査整理ニ任セ

シム

第八條 各主任委員ハ互ニ他係ノ分擔事務ヲ補助シ其整理進捗ヲ圖

ルニキモトス

第九條 各主任委員其担任セル整理事項ニ關シ調査ノ終ラシムル其経過

及處分案ヲ記述シ全委員ノ意見ヲ徴シ先後本委員長ノ裁定ヲ受附

第...条

第十四条 前条ノ掲ガ裁定アリタル時該主任委員ハ其處分案ニ從ヒ速ク

其處分ヲ終了スルニ但シ民政官衙ノ處分ヲ俾西キスルトキハ全官衙

迴牒ノ上其執行ヲ要求スルニ

第十五条 前条ニ未段ノ場合ニ於テ民政官衙ノ處分ヲ終了シタルトキハ遲滞ナ

ク其關係書類ヲ受領スルニトテ

第十六条 委員長ハ整理事務ニテ急遽處分ヲ要シ且重大ナル事項ニ關

スルモハ全地ニ在ル一名ノ委員ニ其權限ヲ委任スルコトアルヘシ

第十七条 整理事務ノ進捗ヲ圖ル為ニ每週火金兩日午前十時ヨリ定期會

議ヲ開ク但シ該緊急ニシテ或ル場合ニ臨時會議ヲ開クモトス此場

合於テハ廢務係主任委員長ノ命ヲ受ケ豫メ各委員其會議

事項及日時ヲ通知スルヘシ

第十八条 各主任委員ハ毎旬其分擔ノ係ル整理旬報ヲ廢務係主

任ニ送付シ廢務係主任委員之ヲ整理シ全報ノ整理旬報ヲ各

委員長ニ提出スルヘシ

戒

旅順殘留財産取調及處分爲其所有者又ハ代理者
渡航ノ件

十月十三日大本營ニ於テ次長、大島大佐、外務省政務局長
陸軍省軍事課長、參謀官並ニ旅順要塞參謀長條田
國際法事務囑託ノ協定ニシテ旅順殘留財産ノ処置ニ關
スル方針左ノ如シ

旅順退去者ノ殘留シタル財産ハ其所有者又ハ正當ニ委託ヲ受
ケタル代理人ニ於テ在本邦本國公使ヲ經テ外務省ニ渡航ノ取
扱ニ限リ陸軍省ニ於テ渡航ヲ許可シ其殘留財産ヲ取
調處分セシム但シ左記ノ動産及不動産ハ各邦ノ運入処置ス
一 德和、紀鳳台(清國人ニテ旅順要塞ノ故リ以テ軍事官署名)ノ財産
ニシテ旅順口内ニ在ルモノハ大連其他ニ在リタルモノト同シク之ヲ
没収ス

二、ギンズバル(露西人ニテ軍用)ノ財産ニテ軍衛ノ保管官ニ
係ルモノハ之ヲ其所有者又ハ代理人ニ返還ス但シ軍用ニ供シ
タルモノハ之ヲ償還セズ

三、露國租借地又ハ鐵道敷地内ニ在ル露清銀行ノ土地家
屋ハ戰利品トシテ収用スルコト大本營ノ希望ニシテ旅順要
塞司令部ニ於テモ同様ノ取扱ヲ爲シ束シリ

四、露清銀行ノ諸帳簿類ハ一切同銀行ノ正當ナル代理者
ニ返付ス

五、正當ノ手続ヲ以テ露國官憲ヨリ拂下ラセケル土地ハ我
軍衛ニ於テ其右有リ認ム但シ我官衛ニ於テ保管スル
土地台帳ニ記載シタルモノニ限ル

六、市有土地ヲ市ト個人間ノ貸借契約ニ依リ使用シタルモノ
ハ其私人ノ權利ヲ認ム

七、市有家屋中貸借契約に依り私人に貸附アリテ借家料ヲ完納シ来リタルモノハ官憲ノ必書ニテ其後同家屋ニ住居セシム

住居セシム

八、露國陸海軍々人其他官吏及恩給ヲ有スル者ニ家屋建築ノ爲無代價貸下ヲ規定シタル市有地域内ニ於テ借地人ノ市有家屋ヲ建築セザルモノハ私軍衛ハ其土地ニ對スル特權ヲ認メス既ニ建築シタルモノニ付テハ其家屋ノ所有權ヲ認ムルモ其土地ニ付テハ今後市ト約束ヲ要スルモノトス

九、黄金山別荘地内ハ地名敷地ナルカ故ニ外人ノ出入ヲ禁ス

十、露國赤十字社ノ家屋ハ依然私病院ニ使用ス

十一、露國司法機關ニ於テ審理中ナル訴訟又ハ判決ハ私軍衛ハ一切セリ遵行セス但シ目下押収シテ司法廳ノ書類ハ露國官憲ノ請ハルニテセリ係留ス

十二、露國商人ノ家屋ニシテ私軍衛ニ於テモ徴用ノ際補償アリ為ス

ス(4)コトヲ宣言シタルモノハ相當ノ補償ヲ為ス

十三、市有財産ハ軍衛ニ於テ官有財産ト同ノ取扱ヲ為ス

右各紳ニ付外務省及陸軍省ニ於テ異議ナキ以上ハ旅順要港長官歸還ノ上合要憲司令都ニ於テ別紙ノ規則ヲ發布シ陸軍省及海軍省ノ手続ニ遵從シ官有財産所有權又ハ其代理人ノ旅順渡航ヲ許ス

福順身之考

外國人私右財産管理委員等一因委員會
開會ニ因テ報告中訂正ノ旨

二七三三

本月十三日附福順身之考本件報告中在島
國福順身之考本件報告中在島
不レ債権金額ヲ或テ四萬八千參百參拾五圓拾六
百ノ上記セシ或テ四萬四千九百或拾參百拾五
百ノ誤算人ニ付添テ訂正政修致具
明治三十九年二月十四日

在福順

信文公使館ニ專書記交

加藤外務大臣閣下

海軍省

機密 第568號

手紙

明治三十九年三月三日
旅順芽三平

一、外國人私有財産管理委員事務概況

右参考として別紙を通及外報に送る

明治三十九年三月二日

旅順

信使公使館書記官

加藤外務大臣閣下

田中

機密

5-0721

0021

外國人所有財産管理委員ノ事務概況

案自十三日附務順第一号ノ報告其申以來同月
末日ニ至ル間ニ於テハ官ノ主管事務ニ係ル
不動産ノ関係ニ事項ヲ初メトシ其餘動産及
一般ノ管理ニ互ル事務ヲ格別重要ニ處スル
モノアルナシ比向ニ於テ外國人ノ遺留財産管理ノ
為メ事務規則ノ下ニ當リ渡航セシモノ其數
五名ニ止リ其前ヨリ既ニ渡航セシモノヲ累計シテ
六名ニ過キバカモ比外ニ從來ヨリ在留
スル外國人ニシテ其財産管理ノ関係ニ出願スル
セシモノ若干アリ此等ニ對シカ官ノ主トシテ審査

決行シタスモノ、其會ナルモノニシテエタスガレリ高
會ノ申請ニ係ル四ヶ所ニ數在ル各カ屋(現下
官有ニ編入)ノ所有權確認カノ件ナリトモ是レ
ヨリ先キカ官ノ不動産ノ所有權ノ関係ニ係ル
審査ノ方針如何ニ依リテ殊ニ外國人ノ共情
ヲ振リノ餘心ヲ生スルモノヲ處リ務メ當局者ノ
方針ヲ確定シ置テ、要ヲ認メ左ノ意見あり
ヲ起ルニシテ委員長ノ裁定ヲ請フ

地所カ屋ノ所有權確認カノ申請ニ對スル
審査ノ方針ニ関スル件
残留財産中地所カ屋ノ所有權確認カノ外
人ヨリ申請スルカ屋ニ於テ之ヲ審査決定スル
際ニ據テ以テ標準ト為スルニ方針ニ大別シテ

二あり甲ハ全然地所家危ノ甚甚懐其他公簿
ヲ唯一ノ目安トシ且其懐其他公簿ニ相違有ルモ
差クハ洩シ居ルモノハ考メテ排斥シ其能申請
者ヲ提供シ差クハ提供セトスル及認ノ類ハ
事々之ヲ度外ニ置テノ方針ミテシ且其
懐ニ不備有ルモノハ申請者ノ及認如何ヲ顧ミ
之ヲ以テ審議ノ資料ニ供スルノ方針是レ
ナリ

右ノ両方針ニ就シモ利害相半ハス、感々ナキ
能ハスルヲ甲方針ニ從ハシ

- 一、裁断ノ迅速ニシテ且容易ナリ
- 二、詐偽的證據書類ヲ取捨識別スル煩ナシ
- 三、處分方針等ニ途ニ出テ偏頗ノ議ヲ言ハナシ

ノ利アルトモ同時ニ

一、理論ニ拘泥シテ時ニ事實ニ及ルノ決定
ヲ與ハルコトナキヲ保セズ

二、申請者ノ苦情ヲ醸ス、嫌アリ

三、甚甚懐其物不完全ニシテ露國官憲等
我手ニ收束後ニ於テ放逸セシ部分モ
有リシアル由ナルカ故ニ現存ノモノ以外ニ
属スル申請ヲ一切排除スルハ穩ナクハ
恐アリ

ノ弱点アルヲ免カズ乙案ニ於テハ前記ノ弱点
ナキナリ

一、及認ヲ是認スル甚懐以上差クハ以外ニ
第三者ニ對抗シ得ルキ効力存
存

在ヲ是認スル所以ニシテ為ルニ甚ク其價ノ價
値ヲ傳フルノ婦アリ

三及私ノ確實ノモノタルコト強ト覺テ支ナシ
三差ニ其及認ミシテ露國官廳ノ証明書ヲ

附ルル場合ニシテ當該官廳ノ証明書ヲ
疑或ラ扱クハキ場合ハ生ズルコト多ク
ト困難アリトス信テ或レ之ヲ折衷シ丙案トシテ

先ツ重キヲ其價ニ置キ其價ヲ以テ所有
權ノ有無ヲ判決スルニ重要ノ標準ヲタラシメ申
請者ヨリ提供スル私據書類ノ如キニ甚ク
不備ナル場合ニシテ事實ヲ推考スルニ
ニ過キサラシメ其後所謂心証トシテ之ヲ
當該審査ノ主任委員ノ判定ニ任ス

トスルニ一方案タルノ事歟

各年十一月十三日大本官ニ於テ協定スル
産ノ位置ニ関スル方針書ニ其芽五坪ニ我官
街ニ於テ保管スル土地其面積ニ記載スルモノ
土地ノ右有ラ認ルル規程アリ今後信然此方針
準ルルコトトスルニ左ノ規程ニ主トシテ新市街ニ在
土地ノ場合ニ適用セシメ一般ノ家宅ニシテ所有
權ノ問題起ルル場合ニ甚ク唯一ノ標準ト
スル中不充ニ該協定中ニ明記ナキモノ如シ
依テ人々後ノ事件ニ関スル申請アリタル場合ニ
ニテ審査ノ方針ヲ謬ラサシメンカ為メ此際豫メ
存件ニ對テ方針ヲ一定ニ置クノ要アルヲ認メ
茲ニ右甲乙丙ノ三案ニ就テ御高裁ヲ仰ク

明治三十九年二月二十二日

石塚委員長宛

委員長、右ノ三葉中、丙葉ヲ以テ今後揚子江ノ
津則ト裁決セシメテ即チ比方針ニ準ニテ前
記ノエラス、ソノウケシ商船ノ件ヲモ調査シ其結果左
四ノ事、各船所有權確認ノ申請ニ各委員長
委員長、同島ヲ經テ去リ之ヲ事務却リテ事、外
國ノ一國ニシテ、殊ニ慎重ノ調査ヲ遂グルルノ旨
ヲ申シ、現存露國公使館ノ簿ノ一冊、頗ル多ク、而モ
申請者ノ接集スル及、新ノ類、亦盡サレシ所アリテ
為メ、此結果ヲテモ、遺憾ナリトス
露國ノギンズ、高ノ、價格二十有餘、万圓、見積ル
露國ノ財産中、動産ノ間、ルニ重要ノ事項ト思ハルハ、

露國ノ財産中、件ト、前便報先及、露國銀行
ノ帳簿書類ノ問題ト、過キ、以、高ノ倉庫、其
内、露國ノ兵、義勇船、隊、居スル、軍用、船、ヲ、貯
藏セシヤ、疑アリ、シテ、行政、委員、長、之、カ、臨、検、査
必要トシ、其、管理、人、ヨリ、日、倉、庫、ノ、鍵、ヲ、引、渡、サ、シ、メ
臨、検、査、ヲ、行、ヒ、シ、カ、其、結果、多、量、ノ、高、品、之、ヲ、發、見
セ、シ、モ、軍、用、船、ト、シ、テ、ハ、ハ、ス、ハ、牛、モ、一、日、是、シ、ナ、カ、リ、シ、テ、
之、ヲ、解、放、ス、ル、事、宜、ナ、リ、シ、モ、右、管理、人、之、向、ニ、注、意
ヲ、引、込、メ、セ、シ、テ、以、テ、行政、委員、長、其、兵、衛、兵、ヲ、附、シ、テ
之、ヲ、保護、シ、以、テ、今日、之、事、リ、シ、モ、ナ、リ、知、ル、人、ノ、因、由
ノ、高、ノ、代、理、者、英、國、人、ト、シ、テ、ハ、右、高、品、受
領、ノ、為、メ、露、地、ニ、来、リ、シ、テ、以、テ、即、チ、我、官、署、ニ、來、ル、事
ノ、上、意、ノ、之、カ、引、渡、ラ、ル、事、リ、日、倉、庫、中、ハ、アリ、シ

高札ノ差年一開城以後人言曰：或向之匪徒ノ
盜掠ト書セシヤ間キシモ其多ク概シテ依然在
然ノ保倉庫内ト累積シテ以テ該地内者
ニ於テモ高札令領ノ際地官實ニ計シ海防是
ノ意ヲ表スルト云フ

慶應銀行ノ帳簿書類ニ悉ク引渡ラリテ因
行ノ代理者ニ之ヲ授クテ既ニ之ノ果ニ至リテ本
件ノ結果書ニ関東總督府ニ報告スルニ担当
委員是レ目下起草中ニテ其ノ以テ不日收稿ノ
上ニ其ノ要旨ニ因テ内閣ニ供シ得ヘキト云フ
目下ノ事勢ヲ推考スルニ該地財産監理ノ為ノ
当地方ノ渡航スルヤ外國人ノ後々懸念外ニ
少數ナルヤ與ト男心殊ニ動産ノ此ト此ニ

少ノ而其所在概ニ不詳ニシテ其所有權ヲ確立シ
詔諭ノ傳中亦其家財若クハ高札ノ為メ特ニ
渡航シ企ムル者ノ如キ其數固アリ多ク之ヲ以テ
不動産ニ列シケルモ其大都ハ其地所屬ノ市者
ニ屬スルカ故ニ檢制ノ問題起ル(トトモ思ヒシニ唯該
地ノ政未ク私権ノ侵ト推定シ得ルヤトモ之ノ當地
方ニ百三十一戸ニテ所有權ヲ確認スルニ是レ一ト
其地其他公簿ノ類不備ノ為ノ所有主不明ニ
屬スルハ約三百戸アリ將來主トシテ問題トスルニ
此等所謂不明地所屬ナルトテ歎而モ既ニ之ニ關スル
公書ニ之レ以上ノ時事係争トテ解決スルヤカ
一ニ申請者ヲ提彼スルヤ明白且有力ナル證據
書類ニ外ナラシトモ由來地所屬國官實ニ

奥より差うに及統ヒ方如年同書類ニ至リケハ亦極
テ不備ナレ由ニツキ其申請アハ概ニ満足ス然
果ヲ見ルニ難キノ状也

5-0721

0027

新領地七号

新領地所在一覽送附

五九七七

小官當地出資以外國人物財產中物
 不動產之類先經之為之而之之
 現有甚多之類一車改之則業時代
 德ノ際之或レモノルヲ以テ其ノ
 多中ニ或レ先ツ之ヲ完備セシメ
 即チ日夕二三ノ通譯ヲ智勵シテ
 作成ニ俾ル土地在厄ノ甚多其
 就中及ノ限リノ調査ヲ遂テ其
 員ノ一員ノ便ニ供セシメテ其
 上ニテ別ニ編纂シテ其ノ
 此等ノ事及之及進達候致具

明治三十九年四月十八日

信使公使館書記官

西園寺信時外務大臣閣下

花領身七号

花領地所存一覽送附件

小官當此出張以来外國人所有財産中殆
不動産を以て其の多しを以て之を以て
現有甚多の類に軍政の創設時代は百事位
奥ノ際之を以て先ツ之を定備せしむる
多クニ其の先ツ之を定備せしむる
即チ日夕二三ノ通譯ヲ上督勵シテ
花領ノ其の他ノ公領
調査ヲ遂テ其の他ノ公領
供セシムルヲ務メ其の他ノ公領
一覽ヲ得候ニ付其の他ノ公領

本番附番者ハ本領ニ據
ルニテ以テ取脱シテ旅順施
故考テ之ノ誤ハシ

此等七号ノ地底ノ及進達候教具

明治三十九年四月十八日

信玄公使館ニ奉書記官

西園寺信時外務大臣閣下